

第5章

基本構想

第5章 基本構想

1. まちづくりの目標

本市の都市計画は、「住民が住み続ける」ことを前提に、安定した楽しい豊かな生活により、幸せな人生を過ごせるよう“生活都市の創造”に向け、「まちづくりの基本理念」及び「まちづくりの基本目標」を以下のとおり設定します。

◆まちづくりの基本理念

本市の豊かな自然や文化、産業、人材を守り活かしながら、人口減少・超高齢社会、災害や社会経済リスクに備え、優良なストックを保全・活用しつつ、都市の低コスト化も念頭に、コンパクトでネットワーク化された都市構造の構築を目指します。

◆まちづくりの基本目標

基本目標1 ～住み続けられるまち～

子育て・医療・介護・福祉などの都市サービスを支える構造への転換により、誰もが安心・快適に住み続けられるまちづくりを目指します。

基本目標2 ～個性と活気にあふれるまち～

地域産業の活性化や振興を支える交通ネットワークの形成により、個性と活気にあふれるまちづくりを目指します。

基本目標3 ～地域資源を大切にすまち～

自然や景観、歴史や文化など、恵まれた地域資源の保全・活用により、更なる観光や交流を促し、地域活力を相乗的に高めるまちづくりを目指します。

基本目標4 ～自然と共生するまち～

身近な緑の保全・創出・回帰による自然との共生や環境負荷低減に向けた循環型社会の構築につながるまちづくり、また、東日本大震災の教訓を踏まえ、近年の激甚化する自然災害に対し減災の考え方のもとにハード・ソフト施策を組み合わせ安全・安心なまちづくりを目指します。

基本目標5 ～公民が連携する協働のまち～

多様な主体や世代からの意見を尊重し、継続的な公民連携、参画、協働により支え合うまちづくりを目指します。

2. 人口フレーム

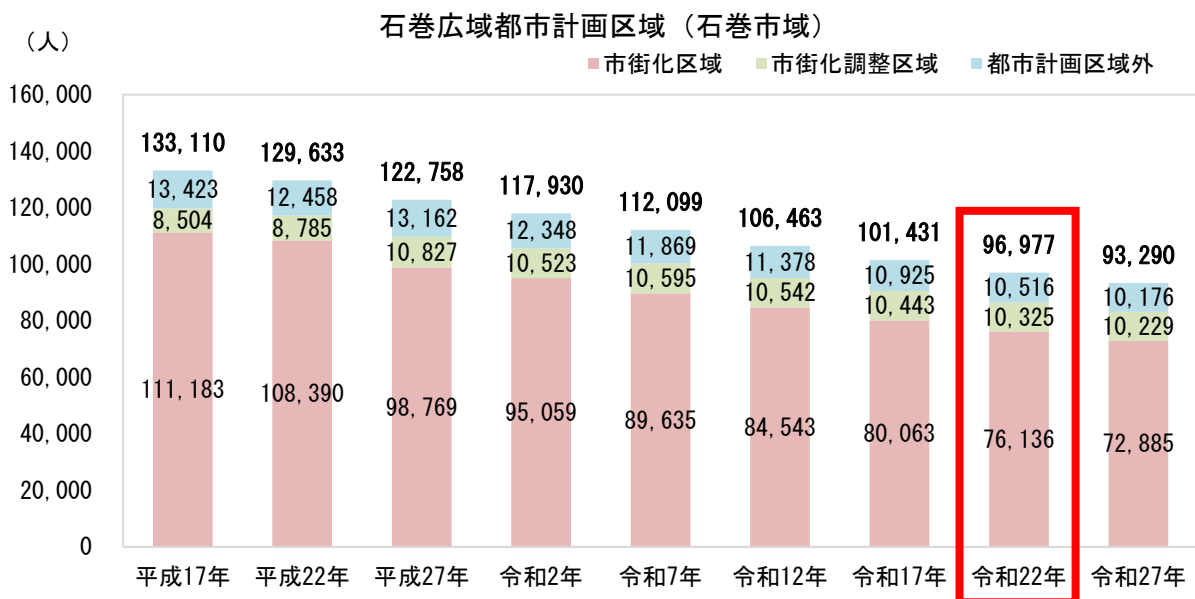
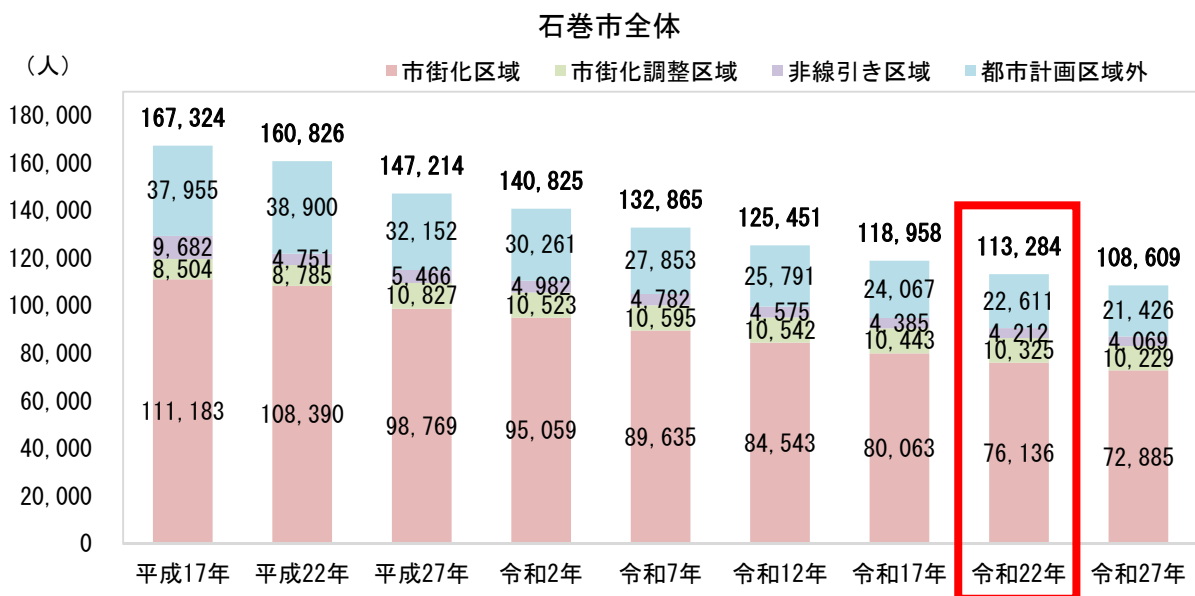
本市の目標人口を推計[※]し、目標年次である令和22年の人口を113千人と設定します。

都市づくりの指針として、都市計画区域における目標人口について、都市計画区域人口の動向に基づくトレンド推計により推計した結果、目標年次の令和22年の人口を石巻広域都市計画区域で97千人（推計値：96,977人）、河北都市計画区域で8千人（推計値：8,255人）と設定します。

※推計方法：①国勢調査における平成17年～27年の都市計画区域内（市街化区域、市街化調整区域、非線引き区域）及び都市計画区域外の人口の実績をもとに、区域別人口構成比の変化率のトレンドから、将来の総人口に占める各区域の人口構成比を推計。

②総人口について、令和2年～令和27年は石巻市人口ビジョンに示される推計値を使用。

③②の総人口に①の構成比を乗じて、将来の都市計画区域内外の人口を算出



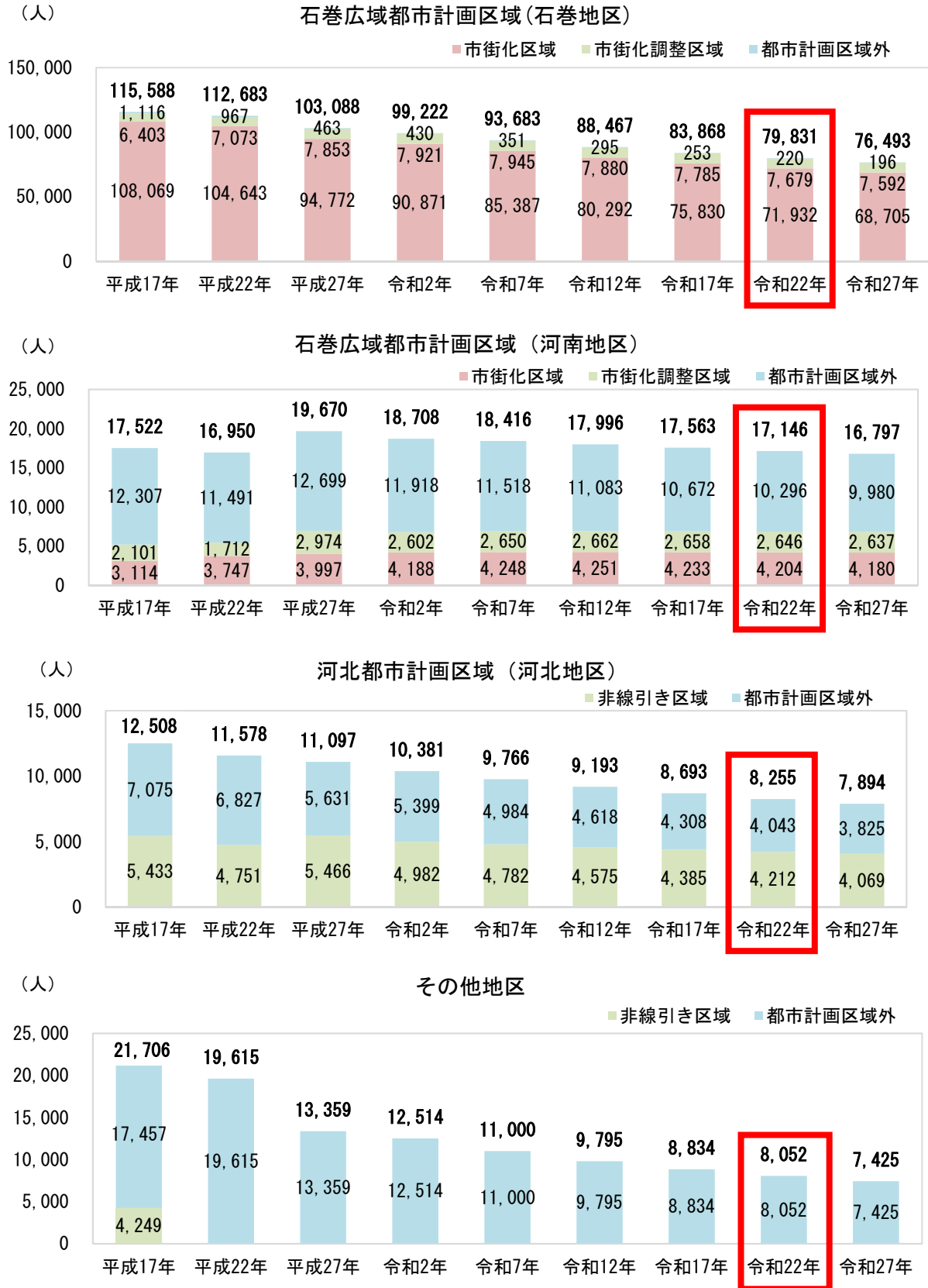


図 5-1 人口の推移・将来推計

3. 将来都市整備の基本的な考え方

将来の都市整備の方向性として、人口減少や超高齢化が進行する本市にあっては、震災復興後の都市機能を踏まえ、人々の命を守ることを前提として、あらゆる人にとって暮らしやすい都市環境の充実を図ります。

そのため、将来の都市運営について次世代の負担軽減のため、道路、鉄道、上下水道、電力、ガス、通信等の社会インフラに加え、公園緑地、森林、河川等の自然環境や、行政、消防救急、教育、医療福祉、金融、文化、コミュニティ等の制度としての社会資本を含めた現有ストックの再評価と有効活用及び適正な管理運営による持続可能な地域社会の構築に向け、都市機能を集約したコンパクトな都市拠点を形成し、それらをネットワークでつなぐ都市づくりを目指します。

具体的な都市計画区域等における今後の方向性は、以下のとおりとします。

○石巻広域都市計画区域

本市における都市構造の中心的役割を担うことから、一部に縁辺部への市街化圧力は懸念されるものの、土地利用規制と都市施設計画との連携を堅持しつつ、必要な都市計画区域及び区域区分の見直しを検討し、適正に整備、開発及び保全を行い、都市機能の集約に努めるものとします。

○河北都市計画区域

石巻広域都市計画区域との連携を図りつつ、一体の都市として、今後も都市機能を充実させていくものとします。

○都市計画区域外地域

当該地域は、総合支所一帯の拠点機能を堅持しつつ、今後とも、居住者が安全・安心に住み続けることができるよう、生活環境を維持・充実させ、地域住民が中心となって地域資源や地域の個性を継承していくまちづくりを推進していきます。

今後とも、計画的な規制や誘導策等により、まちづくりを進めるとともに、都市を取り巻く社会情勢の変化に対応し、計画の見直し等を行うものとします。

主な見直しや取り組む内容は以下のとおりです。

- ①石巻河南IC周辺は、立地環境を活かした大規模な商業施設等の集積によって買物客等の人の流れが大きく変化していることを踏まえ、周辺環境への影響も考慮しつつ、商業系用途への見直しを進めます。また、三陸自動車道沿線などの交通結節点で都市的土地利用を図る必要性が高い地区については、その見直しを検討します。
- ②都市構造の骨格と位置づけられつつ、長期未着手の都市計画道路については、宮城県の「都市計画道路見直しガイドライン(改定版)」に基づく評価指標を設定し、見直しを行います。
- ③市街化調整区域内の集落地等については、市街化を抑制すべき区域であることを前提に、特に集落環境の改善、地域活力の維持を図る必要がある地区等については、地域特性等を

十分に考慮し、地区計画制度等の活用により、地域産業の健全な発展との調和を図りながら、居住環境の確保や地域コミュニティの維持・保全を図ります。

4. 将来都市構造

将来都市構造は、第2次石巻市総合計画における土地利用の基本方針、方向性及び将来都市整備の基本的な考え方を基本とし、点（まちの拠点）、面（まちの土地利用）、線（まちの軸）の3つの構成要素により、コンパクト+ネットワークを形成する都市構造とします。

特に、新しい石巻の顔として、都市核拠点と新都市拠点のそれぞれの特徴を生かしながら連携を強化し、この2拠点を要として、都市の低コスト化にも留意しつつ、周辺に立地する他の拠点をネットワークでつないで都市構造の骨格形成を図ります。

(1) まちの拠点

1) 都市核拠点

JR石巻駅周辺を含む既成中心市街地を都市核拠点と位置づけ、公共交通の結節点としての機能に加え、市民の多様なニーズに応え、市民活動と経済活動の中心としての役割を将来にわたり果たし続けられるよう、行政サービス及び商業業務機能、居住機能など、多様な機能をコンパクトに集積し、さらには水辺の空気感の中で時を楽しみ・人が集まり交流する、歩いて楽しいまちとするため、ユニバーサルデザインの導入促進と市街地の防災機能の強化に努め、石巻の顔として再活性化を目指します。

2) 新都市拠点

石巻河南IC周辺は、広域型商業機能とともに、統一感のある郊外型のまちなみが形成され、建物の不燃化や耐震化、公園等のオープンスペースの計画的な配置による良好な居住機能が図られており、今後においても維持していくものとします。

3) 地域結拠点

河北総合支所及び河北IC周辺は、各地域との結節点と位置づけ、観光機能やスポーツ・文化機能の充実を図るとともに、道路体系や公共交通を活かし、各地域間を結ぶ拠点として活性化を目指します。

4) 地域行政拠点

各総合支所周辺は、地域の行政拠点と位置づけ、地域に根ざした行政サービス機能や地域振興機能の充実、景観や生態系等の環境保全、地域住民が育ててきた歴史や文化を継承しつつ、心豊かに暮らせるよう、コミュニティ拠点として維持・増進を目指します。

5) 工業・水産業拠点

【仙台塩釜港(石巻港区) (本計画では「石巻港」と表記。) 周辺】

石巻港周辺は、国際拠点港湾の位置づけを踏まえ、東北地方における紙・パルプ、木材、飼料の生産、供給拠点として、大型バルク貨物の集積や企業の誘致に努め、更なる基盤整備による産業集積を目指します。

また、石巻港はクルーズ船の寄港地としての一翼を担っており、県内外の観光振興及び交流人口の拡大を図るため、引き続きクルーズ船の誘致に向けた環境整備を港湾管理者等へ働きかけます。

【須江地区】

須江地区は、内陸の工業拠点と位置づけ、三陸自動車道や国道108号による広域連携軸や石巻港ICからの近接性を活用し、職住隣接型の工業拠点として機能強化を目指します。

【石巻漁港、渡波漁港】

石巻漁港(特定第三種漁港)及び渡波漁港(第三種漁港)は、本市の漁業の中核的な機能を有しており、その背後地や周辺地域では水産加工業や関連産業が盛んに行われています。本市の水産業を牽引し、水産物の安定供給を果たす拠点として、持続的な発展を目指します。

6) 学術・新産業拠点

南境地区は、住・遊・健康増進機能を兼ね備えた、産と学の創造拠点と位置づけ、石巻トウモロビジネスタウンと石巻専修大学との機能連携を推進し、新産業業務機能の集積による産業の活性化と雇用の場の創出を目指します。

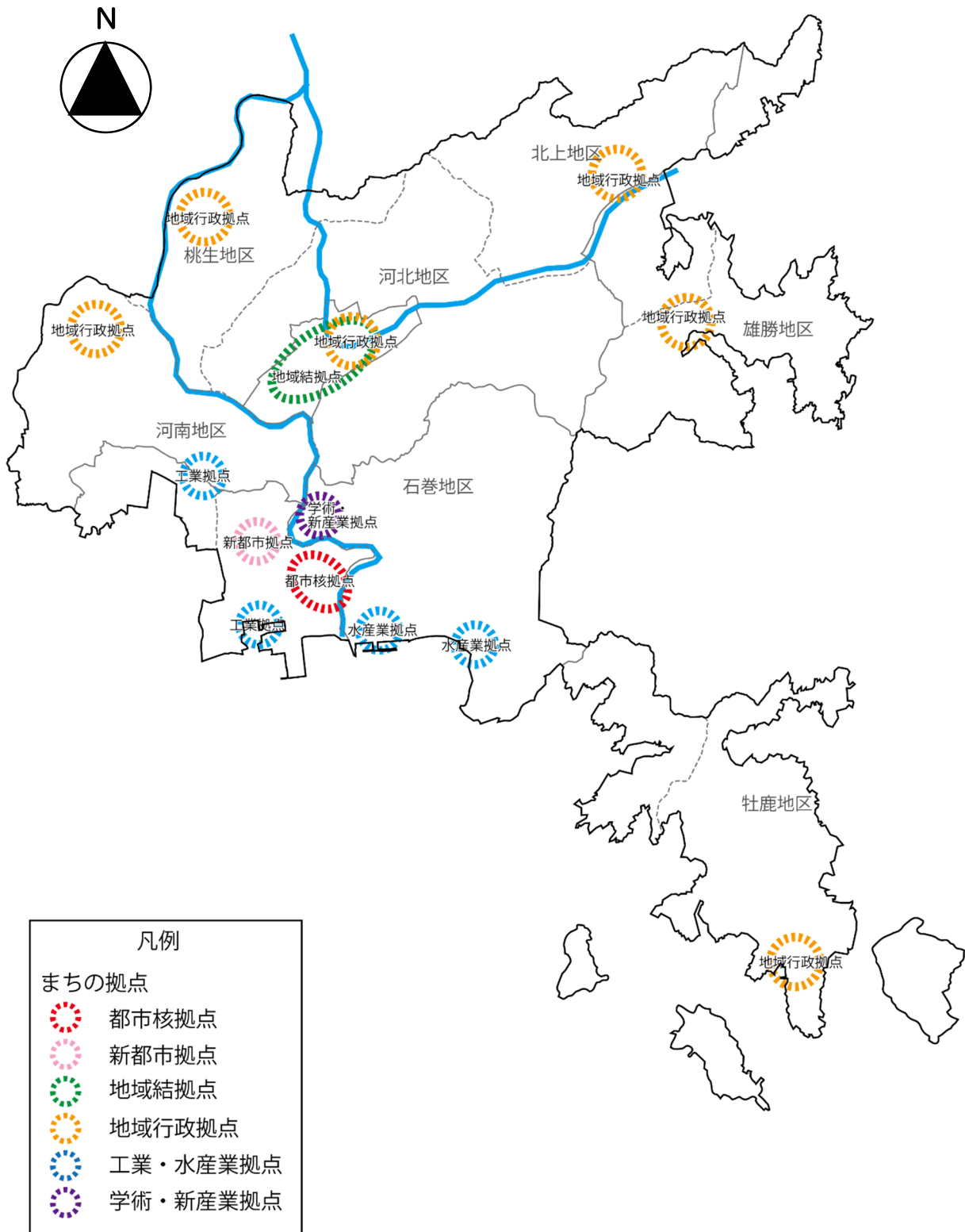


図 5-2 将来都市構造—まちの拠点

(2) まちの土地利用

1) 都市づくりゾーン

石巻地区、河南地区及び河北地区の各一部については、コンパクトな都市づくりを推進するゾーンと位置づけ、安全で快適かつ良好な都市環境の形成を目指します。

2) 自然環境共生ゾーン

都市づくりゾーン以外の地域については、日常生活と自然環境との共生を推進するゾーンと位置づけ、豊かな自然環境の中で、農地・山林・水辺の保全を図り、持続的に心豊かな生活ができる環境の形成を目指します。

地域住民が歴史や文化を大切にしつつ、心豊かに暮らせるよう、生活基盤や産業基盤の整備と公共交通を含む交通ネットワークの形成を図ります。

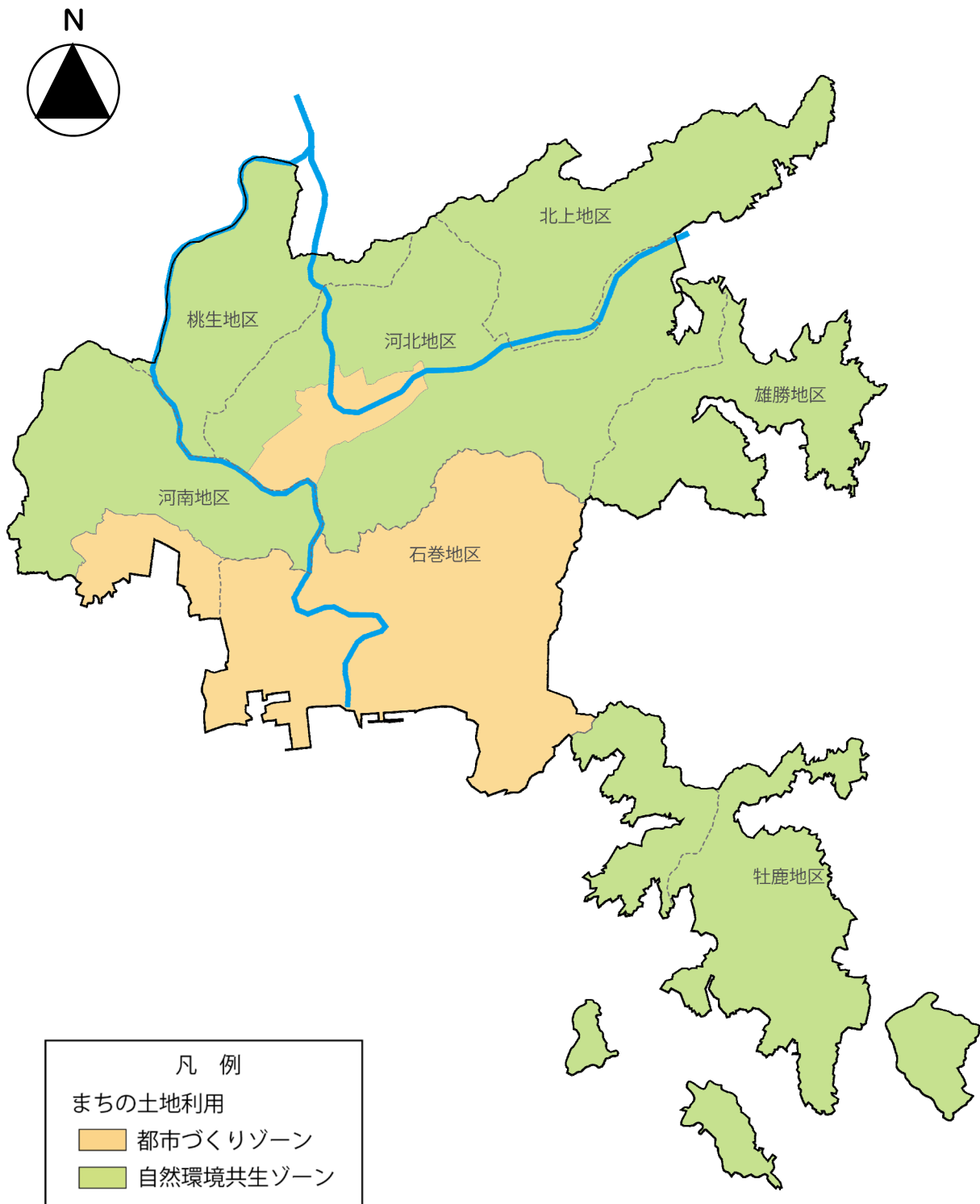


図 5-3 将来都市構造—まちの土地利用

(3) まちの軸

広域連携軸と地域連携軸を中心に、まちの拠点をむすぶとともに、市内外の連絡機能を拡充します。

1) 広域連携軸

三陸自動車道及び石巻新庄間の道路は、他都市間を結ぶ広域ネットワークの軸と位置づけ、さらなる高速交通の整備や利便性の機能向上を図り、広域都市間における連携強化と交流促進を目指します。

2) 地域連携軸

国道45号、国道108号、国道398号のほか、主要な県道及び離島を結ぶ航路は、まちの拠点等を結ぶ地域ネットワークの軸と位置づけ、コストを意識した計画的な道路整備や航路の維持を図り、市内地域間における連携強化を目指します。

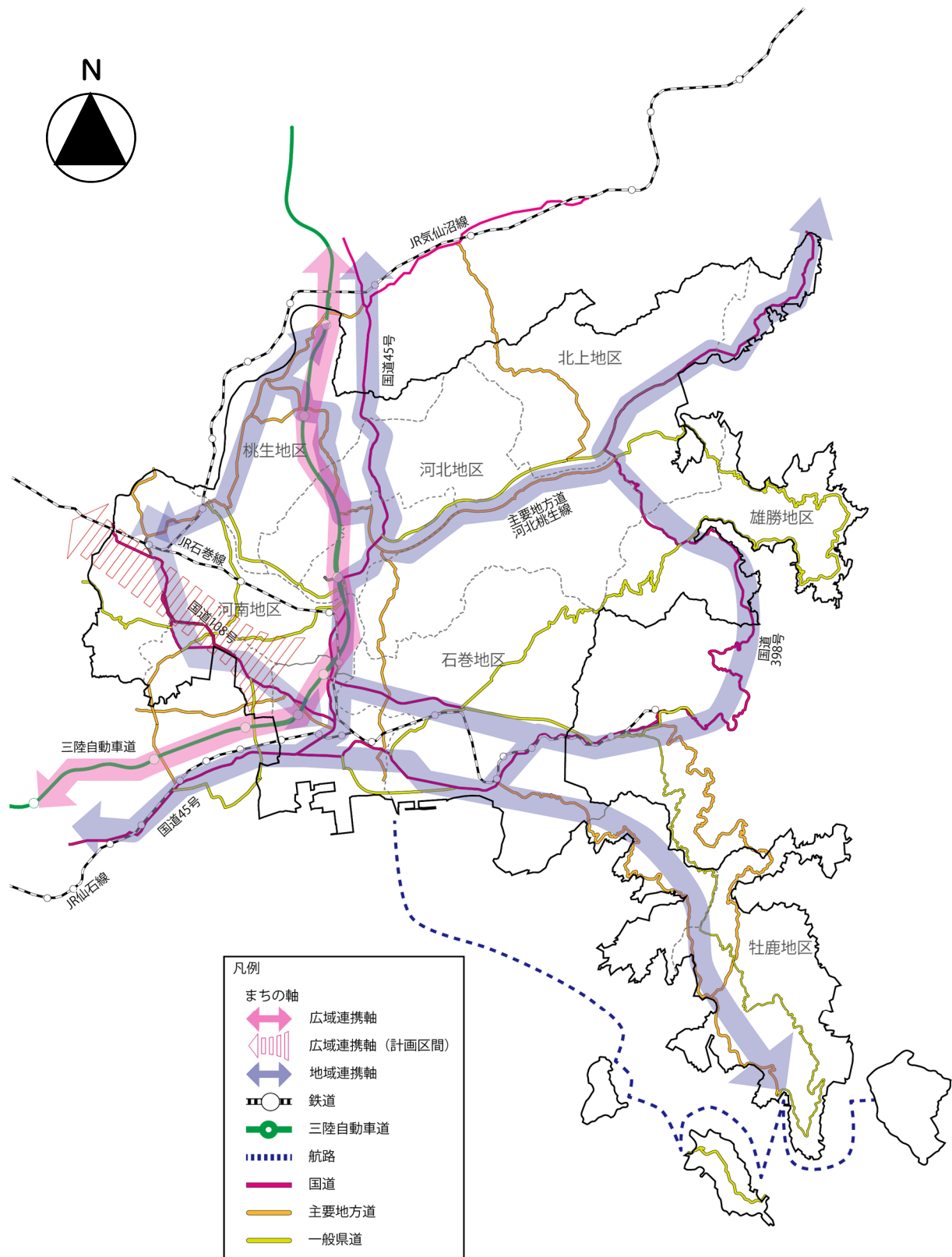


図 5-4 将来都市構造—まちの軸

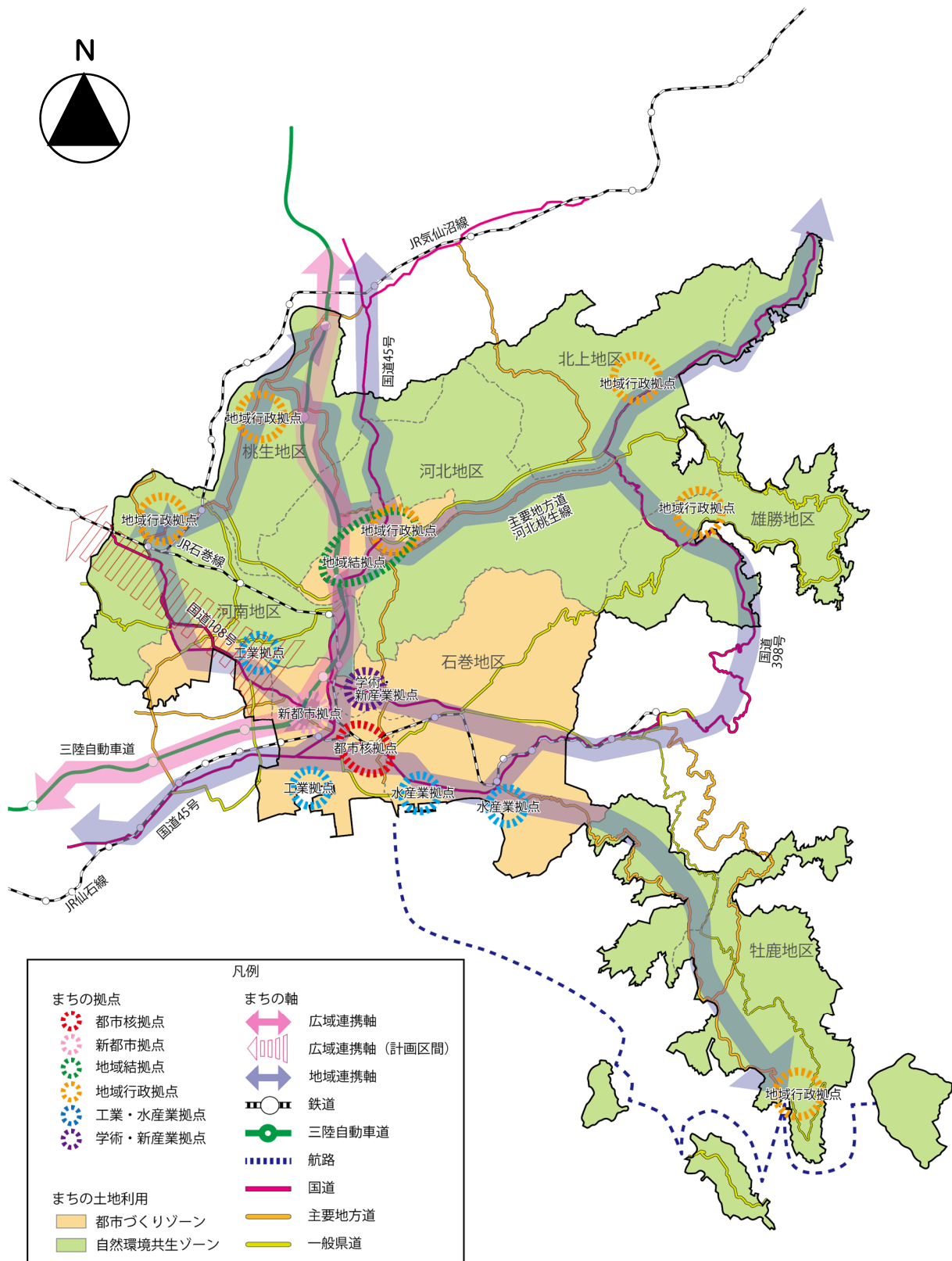


図 5-5 石巻市 将来都市構造